

十鉄支援3市町拒否へ

3首長近く個別会談

十和田観光電鉄(本社・十和田市)の鉄道事業の存廃問題で、同社から財政支援を求められていた沿線3市町は15日、要請を拒否する方針を固めた。複数の自治体幹部が明らかにした。3首長が近く個別に会談して意見集約し、同社にそうした考えを伝える予定。存続の条件に掲げてきた財政支援が絶望的となり、同社は厳しい判断を迫られることになる。

この日までに各自治体とも同社による議会と住民への説明会が終了した。住民説明会では十和田市と六戸町では、「何とか残してほしい」などと存続を求める意見が多かった一方で、三沢市では消極的な意見が多く聞かれた。また、3議会は「延命策に過ぎない」といった否定的な意見が多数を占めた。さらに、利用者の間でも、大規模な署名運動など存続を求める動きが広がらなかった。

こうした状況から、各自治体とも「支援は困難」との考えを固めたとみられる。いずれの自治体も財政状況が厳しく、当初から巨額な支援は難しいとの見方がもっぱらだった。ある自治体幹部は「どこも腹は決まっている。この期に及んで、(支援を了承する)逆転劇はあり得ない」と話している。

関係者によると、小山田久・十和田市長が20日にも、種市一正・三沢市長と吉田豊・六戸町長と個別に会い、支援に否定的な考えを伝える予定。両首長もこれに応じる構えで、今月下旬には合意内容を同社に伝えるという。

同社は事業存続に今後10年間で計約5億2000万円の財政支援が必要と見積もっていたため、さらに窮地に追い込まれそうだ。3市町からの回答を踏まえ、最終決定の期限としていた今月末にも、同社が廃止に踏み切るかどうか今後の焦点となる。

同社の白石鉄右工門社長は15日夜、六戸町であった住民説明会後に記者団の取材に応じ、「鉄道を残していただけるようこちらの思いは説明してきた。3市町からの回答をお待ちしたい」と語った。

(2011年9月16日 読売新聞)

最新記事

一覧

十鉄支援3市町拒否へ (9月16日)

最終処分地未定不安の搬入 (9月16日)

教諭、拡声機で児童殴る 弘前和徳小 (9月16日)

八戸前沖さば旬の到来宣言 (9月16日)

大間原発工事再開「個別に判断」経産相 (9月16日)

コメ放射性物質検査 14市町村分検出されず (9月16日)

白神観光に電気自動車 (9月15日)

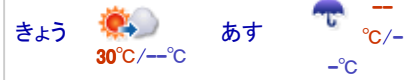
新着おすすめ

トップ

「ブリキア」アフレコ体験も
高さ18m、浜岡原発防波壁着工
瀬戸大橋の看板娘「四国萌え隊」

県内の天気予報

詳細



読売新聞 ▶ ご購読のお申し込み

yorimo

▶ トクする会員サービス

地域

トップ

- 北海道 鈴木市長の夕張通信
- 北陸 モレシャン夫妻の北陸記
- 中部 幸せの新聞
- 関西 鉄の掲示板
- 九州 温泉宿検索「ゆあみびと」

北海道	青森	岩手	宮城
秋田	山形	福島	茨城
栃木	群馬	埼玉	千葉
東京	神奈川	新潟	富山
石川	福井	山梨	長野
岐阜	静岡	愛知	三重
滋賀	京都	大阪	兵庫
奈良	和歌山	鳥取	島根
岡山	広島	山口	徳島
香川	愛媛	高知	福岡
佐賀	長崎	熊本	大分
宮崎	鹿児島	沖縄	

支局から

✉ メールはこちらへ